

日韓国交正常化60周年記念
ロッテホールディングス、日韓合同オーケストラ特別演奏会に協賛
前日に東京音楽大学にてトークセッションを開催

ロッテホールディングスが協賛する、日韓国交正常化60周年を記念したKBS交響楽団と東京フィルハーモニー交響楽団合同オーケストラの特別演奏会が3月2日に東京、翌日にはソウルで開催されました。東京公演の前日には、ロッテホールディングスが東京音楽大学とともに企画・主催したトークセッション「日韓音楽文化の発展 クラシックからポップスまで」を実施いたしました。



■トークセッション「日韓音楽文化の発展 クラシックからポップスまで」

- ・イベント概要
- 開催日時：2025年3月2日 17:30～19:00
- 会場：東京音楽大学池袋キャンパスA 館 A100 教室
- 主催：株式会社 ロッテホールディングス
- 共催：東京音楽大学指揮部会

①日韓国交正常化60周年記念特別演奏会～リハーサルを終えて～

公開リハーサルを終えたばかりの東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの三浦章宏氏、KBS交響楽団アシスタントコンサートマスターのチェ・ビョンホ氏が登壇し、今回のプログラム「2台のピアノのための協奏曲」(モーツァルト)、「交響曲第1番『巨人』」(マーラー)をチョン・ミョンフン氏の指揮のもとともに演奏した感想を述べました。三浦氏は「ユーモアも交えながらも、厳しく濃密で綿密なリハーサルでした。本番では日韓のオーケストラと一緒に奏でるからこそ素晴らしいさを感じてもらえるような演奏をしたいと思っています」と述べました。チェ氏は「皆が一つになって表現し、それを観客の皆様へ届けられることの幸せを、マエストロ(チョン・ミョンフン氏)は常に口にしています。その幸せを日本で分かち合っていることを実感しました」と述べました。



左から
・東京フィルハーモニー交響楽団
コンサートマスター 三浦章宏氏
・ピアニスト 五十嵐薫子氏
・ピアニスト ソヌ・イゴン氏
・KBS 交響楽団アシスタントコンサート
マスター チェ・ビョンホ氏

②日韓ポピュラー音楽の歩みと展望

日韓の音楽文化論を研究している北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院の金 成玟(キム ソンミン)教授が「日韓ポピュラー音楽の歩みと展望」と題して講演し、1965年の日韓国交正常化から今日までの両国の音楽文化の流れとともに、アメリカをはじめとする日韓以外の国でJ-POP、K-POPが人気を得ていく過程をたどりました。日本の大衆文化の流入制限が長く続いた韓国において、坂本九の「上を向いて歩こう」が1963年にアメリカのビルボードチャート1位となったことが大きな意識変化をもたらしたと金教授は指摘し、現在はK-POPが世界的なブームとなっていることに触れました。さらに「日本的なもの、韓国的なものとは何か」を自ら考えつつ、「グローバルな存在」として日韓を捉え直すことの重要性を強調しました。



北海道大学メディア・コミュニケーション研究院
金 成玟 教授

③東京音楽大学在校生・卒業生による韓国歌曲、日韓童謡の演奏

最後に東京音大在学学生(ソ・イェキョ氏、チェン・リ氏)・卒業生(パク・ソンビン氏)によるミニコンサートを開催いたしました。チェン氏のピアノ伴奏による韓国歌曲、日韓童謡の素晴らしい演奏を披露していただきました。

- 演奏曲目：
반달(半月)、뱃노래(船の歌)、고풍의상(古風な衣裳)、우리가 서로 사랑한다는 말은(私たちが互いに愛するという言葉は)
故郷、고향의 봄(故郷の春)

■KBS交響楽団と東京フィルハーモニー交響楽団合同オーケストラの特別演奏会

トークセッション翌日の3月2日にはロッテホールディングスが特別協賛した演奏会が東京オペラシティで開催されました。KBS交響楽団桂冠指揮者であり、東京フィルハーモニー交響楽団名誉音楽監督でもあるチョン氏の指揮のもと、両楽団がときに寄り添い、ときに競い合うかのように豊かで力強い演奏を繰り広げ、万雷の拍手がホールを包み込みました。終演後には両楽団の団員が握手を交わし、音楽がつかないだ友好を象徴するような姿が印象的でした。